



## 第 49 回（平成 22 年 5 月 12 日）定例会の研究発表

### 「軽川の社交場みどり亭」

稲穂 一ノ宮博昭氏



昭和の初めころ手稲本町 2 条 4 丁目に、みどり亭という社交場を建てた万田さんの長男から借りた写真集を、一ノ宮さんがパソコン画像で披露してくれた。みどり亭の写真を見ると、3 階建てのかなり大きな建物である。一ノ宮さんから渡された当時の地図を見ても、街道沿いにびっしりと商店が建ち並び、いち早く鉄道が通った街の底力と繁栄ぶりを知ることが出来る。社交場だけに芸者の写真が多く、特に一番人気のひな奴は誰が見ても好感の持てるチャーミングな顔立ちで、中には北海の海賊としてロシア人に恐れられた江連力一郎の娘も居たらしい。郷土史でいね 29 号の軽川光風館事件 にも紹介されているように、光風館とみどり亭は意外なところでつながっていたのである。

昭和 5 年 7 月このみどり亭に將軍家の末裔徳川家達公爵一家が泊まり、そのときの写真には川合村長、手稲山の大部分を所有していた近藤新太郎社長父子、前田農場の支配人などが公爵を挟んで並んでいる。そのほかに社会党から村議になった一ノ宮さんの恩師や箕輪町長、乙黒さんや丸五醤油の松井さんが作った商工会と青年団の演芸会の様子の写真などもあった。特に興味深かったのはエンストばかりして使い物にならなかった消防車と、当時は火事になると泥炭地に引火するので、ホースを地面に差して消化した話など。また藤川薬局が 1 万円も寄付して造ったはずの戦闘機手稲号は実在せず、軍がネームプレートだけ差し替えて道内各地に同じ話を持ち込んでいたことや、そうとも知らずに戦地から手稲村民に送られた激励文のコピーなどから戦争の愚拳を指摘するていね倶楽部の記事も考えさせられた。  
[文責：釣本峰雄]

#### 次回の予定

次回（7 月 14 日）は、講師渡辺滋氏の都合で、予定を変更させていただきます。会員発表で、條野雄一氏の「石狩低地帯～手稲地区の土質」、茂内義雄氏の「年表に見える明治の手稲」、三国勲氏の「区内めぐり～手稲鉾山神社など～」を学習する予定です。

#### 【お願い】

当日は、「手稲歴史年表」をご持参ください。

... 会場変更 ...

今回は、会場が「第 1 会議室」に変更になります。

## 第 49 回（平成 22 年 5 月 12 日）定例会の研究発表

### 「軽川桜づつみ完成への道」

前田 佐藤 至氏

#### 1 はじめに

軽川の桜づつみが完成するまでには、その話が出てから 10 年もの歳月がかかってようやく実現した。昭和 40 年～50 年代は、手稲駅北側の宅地開発が進み、住宅が建てられ各町内会も組織されていた。その当時の軽川は、水量も多く、また下水道等の整備もされていなかったため汚れ放題であり、危険な状況の川であり、沿線の各町内会長さんたちは、「なんとかこの軽川をきれいな川にしたい」というのが、強い願いであった。

その解決に向けて、組織的に取り組み始めたのが昭和 57 年の頃であった。

#### 2 中心になって活躍された方々と執念の陳情活動

その当時、中心になって活躍された多くの方々は、すでに亡くなっています。ご冥



福を兼ねてその方々を紹介します。故 鈴木梅二氏（当時、パークタウン町内会長）、故 安田久義氏（当時、前田西第1町内会長）、故 竹内稔氏（当時、くみあい町内会長）

故 井上富吉氏（シーアイ町内会長）、佐藤 一氏 「軽川と桜並木を育てる会」事務局長。

はじめは、札幌市役所へ行ったが、「地球を逆回転させるより難しい」とけんもほろろに断られた。しかし、これであきらめることはなく、次に、道庁土木部へ行った。この話が、当時の堀達也土木部長（後に知事になった人）の目に止まり、構想を聞いてくださり、正式に陳情書を出すようにいわれた。

そこで地元にもどり、「軽川と桜並木を育てる会」を正式に設立し、その会の名前で陳情書を作成した。陳情書は道庁から建設省へ送られ、「国土を緑いっばいにしようという運動」が展開されつつあったときで、タイミングも良かったのか、私たちの陳情書が受け入れられた。そして、間もなく工事 OK の返事が来た。

### 3 桜づつみの工事

工事名を「軽川桜堤」と決定した。北海道札幌土木現業所は、堤防拡幅・排水・護岸などの基盤工事。札幌市は、園路、92個のベンチ、12個の東屋、芝生や花木などの植栽の工事を行った。地域の「軽川と桜並木を育てる会」では、桜の苗木を買って植えることや川の巡視、清掃、除草、桜の保守作業を地域の住民に呼び掛けて実施することになった。

工事は、平成元年より3年計画で前田大橋から前田橋の区間ではじめられた。

### 4 苦労した資金集め

桜の苗木を買うお金は、どの町内会も持っていなかったもので、役員全員で寄付集めをすることになった。しかしこれは大変なことであり、一番苦労した。企業や団体等を会長とともに訪問し、お願いにあがった。しかし、うれしいこともあった。かつて小中学校でPTA活動を一緒にやった人たちや前田青少年育成会の人たちは、自宅まで寄付金を集めて持ってきてくれたのである。総額139万円余りの寄付金が集まった。この時、寄付して下さった方々の団体名、企業名、個人名等は前田橋右岸側の銅板に記してあります。

### 5 桜の苗木を植える

右岸や「左岸に400本近くの桜を住民に呼びかけて植えた。うれしいことに、20本もの桜の成木や200本もの松の木を寄付して下さった近隣の方々もいた。これらの多くの方々の協力があつたおかげで桜並木が完成したのです。

### 6 軽川に魚を放流する会

この桜づつみには、「子供達に良い故郷づくりをしよう」ということもねらいとしてあつたので、桜づつみが完成してそれで終わりとはしなくなかった。そこで、近隣の小学校へ呼び掛けて「軽川に魚を放流する集い」をおこなった。近隣の小中学校へ呼び掛けたところ保護者も含めて500名も参加をしてくださった。魚は、手稲区の土木事業所が、フナ・ウグイ・ドジョウ、カジカなど1500匹ほども用意してくれた。この放流式は、現在も毎年続いています。

### 7 軽川桜づつみ愛護会の設立

また、桜づつみが完成した後は、この保守をどうするかが大きな課題であつた。近隣の住民みんなが軽川に出てくる機会を設けるために、ゴミをひろう軽川愛護デー（年2回）の実施や魚の放流式を毎年行うことにしました。これらの活動は現在まで続いています。

### 8 建設大臣の表彰を受賞

この事業は建設大臣の表彰の対象になるので、これまでの経過をまとめて欲しいとの依頼があり、毎日徹夜をしてまとめた。これが見事、建設大臣賞に当選したのであつた。

### 9 ていね桜まつりの開催

平成5年から商店街にも参加をしてもらい、ていね桜まつりを実施した。この桜まつりは現在まで連綿として続いていて、大変うれしく思っている。

私たちのこの桜づつみ運動を参考にして、手稲区内の各町内会にも桜を植える運動が起きてきた。今後も手稲区全体が桜ロードとしてさらに広がることを願っている。

当時、中心になって活躍された人たちは、故人になられて私だけが残っている状況である。当時を思い出し、そのころの苦労話や、立派に桜が成長して桜並木が完成したよこびの話を、今まさに桜が咲き誇っているこの時期に話をさせていただいて感謝しております。ご清聴ありがとうございました。 [文責：菅原 直]

## お詫び

前回（49回）例会の折に配布した資料「寄贈図書・資料一覧」（寄贈者の欄）で誤記がありました。お詫び申し上げます。

（誤）杉内義雄 （正）茂内義雄  
研究部 阿保肇雄